

第1回教育環境整備審議会 概要

令和8年5月22日(金)18:30

赤磐市中央公民館

1 教育長あいさつ

- ・本日はご出席いただき感謝申し上げます。
- ・平成の時に、第1次教育環境整備審議会を設置し議論を重ねた。
- ・小学校10校、中学校5校という教育活動を進めている。社会の状況は目まぐるしく変化している。幼児、児童生徒数は減少傾向。一方で、保育園、こども園の利用は増加している。
- ・教育を取り巻く課題も複雑化している。子どもたちは生き抜く力、多様な人と協働する力、自ら学び続ける力が求められている。
- ・赤磐市の子どもたちにとって、どのような教育環境、学びの場が子どもたちの可能性を最大限に伸ばすのか、その視点で令和の時代にふさわしい教育環境を構想していくことが大切。
- ・この審議会では、質の高い教育環境を保障すること、適正規模・適正配置による持続可能な学校運営のこと、幼児教育から義務教育までの一貫した学びについてのこと、現在の中学校区の見直しに関する事などについて審議をお願いしたい。
- ・議論の中心は、単なる統合とか施設の配置の話ではない。未来の子どもたちのために10、20年先を見据えた教育を考える大変重要な審議の場である。だから、学識経験者、保護者、地域代表、学校・幼稚園関係者に集まっていたいでいる。
- ・それぞれの立場から率直に建設的に議論をお願いしたい。
- ・議論の中心におくのは、常に子どもたちにとって何が最善なのか、何がベターなのかだ。
- ・赤磐市の未来をともにつくるといふ思いでご参画いただきたい。

2 委嘱状交付

- ・委嘱状を交付します。
- ・任期は令和8年5月22日から令和11年5月21日までとする。ただし、答申が終了するまでの日とする。

3 自己紹介

4 正副会長選出、会長あいさつ

- ・みなさまこんばんは。金川と申します。学校の規模、配置、環境を考えるのは難しいテーマ。学校は子どもにとっての学びの場であると同時に、地域にとっても大事な存在。保護者にとっても大事。様々な考えや思いがある。

・職業上、海外の学校を見せていただく機会がある。本当に様々で正解はない。しかし、何が子どもたちにとって大事なのか、どんな力を付けるのが必要なのかを考えるのはどこの国も同じで大切にしている。子どもにとって何が一番ベストなのか、議題の中心に据えて議論をしていきたい。これまでの当たり前から一歩進んで、赤磐の教育の未来を考えていく議論をしていきたい。みなさま力をお貸しいただきたい。

5 諮問

- (1) 各幼稚園・小中学校における適正規模及び適正配置に関する基本方針に関すること
- (2) 幼小中の円滑な接続と地域特性を活かした幼稚園・学校再編のあり方に関すること
- (3) 幼稚園・小中学校の通学区域に関すること
- (4) その他教育環境の整備に関して必要な事項に関すること

6 説明(赤磐市教育振興基本計画、文科省資料、今後の計画)

- ・赤磐市教育振興基本計画をもとに、赤磐市が目指している教育を確認したい。
- ・「個別最適な学びや協働的な学習を充実させることにより、学習活動の基盤となる自ら学び自ら考える力の育成に努めます。」と表記している。
- ・「非認知能力の育成の視点をもって」と表記している。得点や数字で表すことができない内容。例えば、自分を高める力、自分と向き合う力、他者とつながる力。
- ・「生涯にわたって運動やスポーツに親しむ資質・能力を育成する」と表記している。
- ・「多様なウェルビーイングの実現のため」と表記している。心が満たされる持続的な幸福。「お互いに多様性を認められる共生社会の実現を目指す」と表記している。
- ・「人権が尊重される」と表記している。
- ・文科省資料「公立小中学校の統廃合をお考えの皆さまへ」に、「学校は一定の規模を確保することが重要です」とある。
- ・今後の計画表をもとに進めていきたい。

7 説明(幼児、児童、生徒数)

- ・赤磐市内の児童生徒数。令和2年度、小学生2422人、中学生1175人、合計で3597人。令和8年度は小学生2329人、中学生1194人、合計で3523人。令和14年度、小学生1546人、中学生1050人、合計で2596人と予測されている。
- ・中学校区ごとの推移。全体的に減少傾向。今後6年間でも減少が予測される。
- ・赤磐市内の幼児数。幼児の幼稚園への通園割合は19.7%。
- ・学級数の一覧もまとめている。

8 アンケートの説明について

- ・アンケートを実施し、赤磐市民のみなさんからのご意見をお聞きしたい。
- ・小中学校保護者用、幼稚園保護者用、保育園保護者用、地域用、教員用。
- ・基本的には二次元コードより回答する形式。公民館、市役所、支所等には用紙に書いて回答できるものも用意したい。
- ・地域用には広報あかいわに掲載し、アンケートに協力してもらう予定。
- ・学校・幼稚園の「規模・児童数」、「1 学年あたりの学級数」、「1 学級あたりの子どもの数」を聞いている。「どのような幼稚園・学校に通わせたいと思うか」、「子どもの数が減少すると予測されることを考えた時に、幼稚園、小中学校の適正規模・適正配置についてどう考えるか。」などの設問。

9 協議(アンケートについて)

- 委員：保育園の保護者のデータは必要。幼稚園よりも保育園に通われている子どもの方が多い。保育園は私立なので、保護者の意見を吸い上げることができるのか。
- 会長：保育園の保護者用のアンケートは用意している。小中学校のことを考えるにあたって、保育園の保護者の意見を聞くというのは大切である。
- 委員：小中保護者は、幼稚園、保育園の元保護者、もしくは現在も保護者の方もいるかもしれないので、現状はある程度わかるのではないか。
- 委員：保育園のアンケートは私立保育園にも配付するので、保育園保護者の意見を聞くことができる。
- 会長：幅広く意見をいただけるかが大切。公立、私立の保育園に配付する。その方々の意見を拾える項目になっているかという視点でみていただきたい。
- 委員：非常に難しいテーマである。平成28年にあったが頓挫した。赤坂地域は本当によくやったと思う。地域の特性を十分考えることが大切。
- 会長：議論していく上で、地域という論点も大切であるということをお願いしたい。
- 委員：赤磐市の学校の施設が老朽化している。高陽中の体育館は雨漏りでぼろぼろ。水道も錆が出る。どこの学校も同じ状況。適切な教育が受けることができていない。予算がないというのが市の回答。人数よりも施設のことも含めて考えていく方がよいのではないか。
- 会長：施設設備も含めた教育環境。重要な観点である。
- 委員：文科省資料の基準は明確でわかりやすいが、アンケートに入れるとどうかと思う。屈託のない意見が出るようにした方がよい。教員用のアンケート、身バレしてしまうかも。少し配慮がいるかも。
- 会長：屈託のない意見が出るような内容、誘導しない内容、身バレしない内容ということ。
- 委員：「教育環境」という名前の審議会だが、アンケートの中には教育環境という内容については入っていない。施設設備も考えた教育環境を考えるのか、学校規模的な内容を中心にするのか。

施設は老朽化しているのが現状。

会長：直接、施設設備を議論する場ではないと理解している。先ほどいただいた諮問によると、子どもの教育を実現させていくというものである。子どもの教育環境を考えていく上で、議論の材料にはなる。こういう実態も踏まえていくことも重要であると思う。

委員：答申する場合、議決がいる。地域の思いもある。我々は責任がある。この審議会の過半数で決めてもよいものかと考えてしまう。

会長：教職員から拾える内容、保護者から拾えるもの、地域から拾えるものもあるかもしれない。

委員：人数の少なさ。いろいろな経験をさせてあげたい。集団での経験が不足している。施設など安全面は最低限のことはしていただいている。

会長：学習の環境、生活の環境、集団の経験のことも触れていただいた。

委員：我が子が赤磐市の幼稚園に通ったが、人数が少ないと感じた。もったいないという肌感覚だ。複式学級の学校もある。

委員：複式学級だからどうだという結論があるわけではない。

会長：アンケートでは望ましい人数について聞いてはいるが、その望ましさがどこから来ているのかということきちんと拾うことも大切。そのような、理由も併せて聞けるとよいのではないか。

委員：市民として税金を払っている。費用対効果という視点も考えなくてはいけないのではないか。

会長：教育の観点を忘れてはならない。しかし、費用対効果、予算も当然議論になってくる。大切な視点である。

委員：アンケート内で、統廃合という言葉を使っていない。統廃合をイメージして回答することも大切ではないか。もし統廃合の学校が場合に、どうやって通うのか。バスの対応などの意見も拾い上げることも考える必要があるのではないか。

会長：通学手段のことですね。安全に留意して。

委員：地域がどんな協力ができるのかを教えてほしい。学校との関りが少ない。どんな活動をしているのかがわからない。協力はしていきたい。地域の人にも聞いてもよいのではないか。

委員：地域にそのようなことを聞くと、統廃合が先走りするのではないか。

委員：10年後、20年後の統廃合という表現を入れてもよいのではないか。さらに、子どもが減ったら、前倒しすることもあり得るのではないか。子どもが増えることはないだろう。

委員：10年後という話ではなく、グラフから5年後には半減する。この事実をもっと前面に出してもよいのではないか。2クラスであれば1クラスになるということですよ。1クラスの学校はその半分になる。反対の意見も出るだろうが、現状をはっきりと把握できるように表現した方がよいのではないか。

委員：山陽西小学校は山陽団地だけの学校。もっと学区を考えてもよいのではないか。

会長：子どもに関しては聞かないのか。子どもにアンケートを取ることも含めて考えていただく方がいい。改善のアンケート案は会長一任ということでよろしいでしょうか。事務局と検討させてい

ただく。

10 副会長あいさつ

- ・この人数でこの設備で教育をしていかなければいけないのが現状。今ある環境で、子どもの非認知能力をつけていく。
- ・地域として何ができるか問いかけていただいたことはありがたいことだった。地域にある学校。地域の声も聴きたい。
- ・人数だけではない。人数が少ないなら少ないなりに、多かったら多いなりにやっていくしかない。子どもたちのために精一杯していきたい。
- ・そうなるもメリット、デメリットがどちらもあつ。両方を考えながら最終的には子どもたちにとって何が一番よいのかということ、私たち大人が考えていくことが大切だと思ふ。